

皆が思いやり持つ世界を

視覚障害の女優・東野醒子さんが語る「共生」

視覚障害のある女優東野醒子さん（46）が、十月六日午後一時半から川崎市中原区の中原市民館で開かれる「ノーマライゼーションの世界を作ろう」地域共生の集い2012」の公開講座に登壇する。講演に加え、名作童話「モモ」を題材にしたドラマリーディングを上演。東野さんは「モモ」の世界を、来場者と一緒に「見る」時を心待ちにしている。

（山本哲正）

来月6日 中原の公開講座に登壇



「白いつえは目が見えていないことの合図」と東野醒子さん。誰にでも優しい社会を願う＝中原区で

ドラマリーディング ヤエル・エンテ（一九九〇）に老人が語りかける場は戯曲を声に出して読二九（九五）の作品。面。「人間はね、それむ、シンプルな演劇表 社会批判を見いだす人 それが、その人なりの現。観客は、情景を思 も多いが、優しさや勇 色を持っている。おのい浮かべながら楽しむ 気にあふれる点も人 気の心に正直に生きて舞台だ。今回は、所属劇団 ゆけば、必ず、その色

「モモ」は、灰色の 付きの作家が現代日本 は輝くんだ」。行き詰 紳士たちに盗まれた人 版に脚色した「グレイ まっていた女の子のそ 々の大切な時間を、不 ツシユとモモ」を披露 の後の姿が「見どこ 思議な女の子・モモが する。

取り返しに立ち上が 東野さんのお気に入 りハーサルを重ねて る、ドイツの作家ミヒ リは、主人公の女の子 配置を覚えていく舞台

名作童話「モモ」ドラマリーディングを披露

は、視覚に障害があつても「生きやすい世界」。しかし、日常には危険も多い。白いつえで障害を分かってもらえるはずだが、駅のホームで携帯を見ながら歩く人とぶつかった、線路に落ちるかもしれない。「周りの方も意識して共存しないと危険がつきまとう」と訴える。

講演でも、「『忙しい』は心をくすと書く。深呼吸して自然に目を向けて」「温かい、気持ちのいい心をつくっていこう」と呼び掛ける予定だ。

芸術には創造力、思いやりの力を育てる面があると信じ、女優を続け、福祉のイベントも引き受ける。「視覚障害があり、共生のまちづくりにかかわることも、私が引き受

とうや・さめこ 1962年9月18日 生まれ。山梨県出身。84年、蜷川幸雄氏演出の舞台「にごり江」のヒロイン役をオーディションで射止め、85年、在籍していた劇団若草の俳優らと劇団「激弾BK YU」を旗揚げし、以後看板女優として活躍してい

る。一方、視野狭窄（きょうさく）が進行する難病の網膜色素変性症で、中原区の障害者就労支援事業所「ダンウェイ」で働いている。30代の時、眼科検診で判明。今は視野の95%以上を欠き、1歩先は500円玉大が見える程度という。

けた「役」であり、私の色と思う。皆が思いやりを持つ世界なら、私も助けられる」と笑顔をきらめかせる。

公開講座は入場無料。先着二百人まで。問い合わせは、中原市民館（電433）7773へ。